

教室内教師英語力評価尺度の活用方法

表 1. 想定される活用場面と尺度の選択

(A) <u>自分の授業をビデオ録画</u> して、授業中の英語使用をチェックしたいとき。	(A-1) 授業全体での英語使用	⇒	統合的診断尺度
	(A-2) 特定の活動における英語使用	⇒	タスク別尺度
(B) (ある特定の授業に限定せず) 自らの <u>普段の英語使用</u> (何ができて、何ができないか)を確認したいとき。	(B-1) 全体的な教室英語使用能力	⇒	内省的分析尺度
	(B-2) 言語機能 (e.g. 生徒の発話の誘出) ごとの英語使用能力	⇒	機能別尺度
(C) <u>研究授業</u> などを対象に、協議会などで授業者の英語使用を検討したいとき。	(C-1) 授業全体での英語使用	⇒	統合的診断尺度
	(C-2) 特定の活動における英語使用	⇒	タスク別尺度
	(C-3) 授業者による自らの英語使用の振り返り	⇒	内省的分析尺度
(D) <u>授業実践 DVD</u> (文部科学省作成のものや市販のもの) を使って、その中に含まれている授業を教室内英語の観点から分析したいとき。	(D-1) 授業全体での英語使用	⇒	統合的診断尺度
	(D-2) 特定の活動における英語使用	⇒	タスク別尺度
	(D-3) 特定の言語機能 (e.g. 生徒の発話の誘出) の分析	⇒	機能別尺度

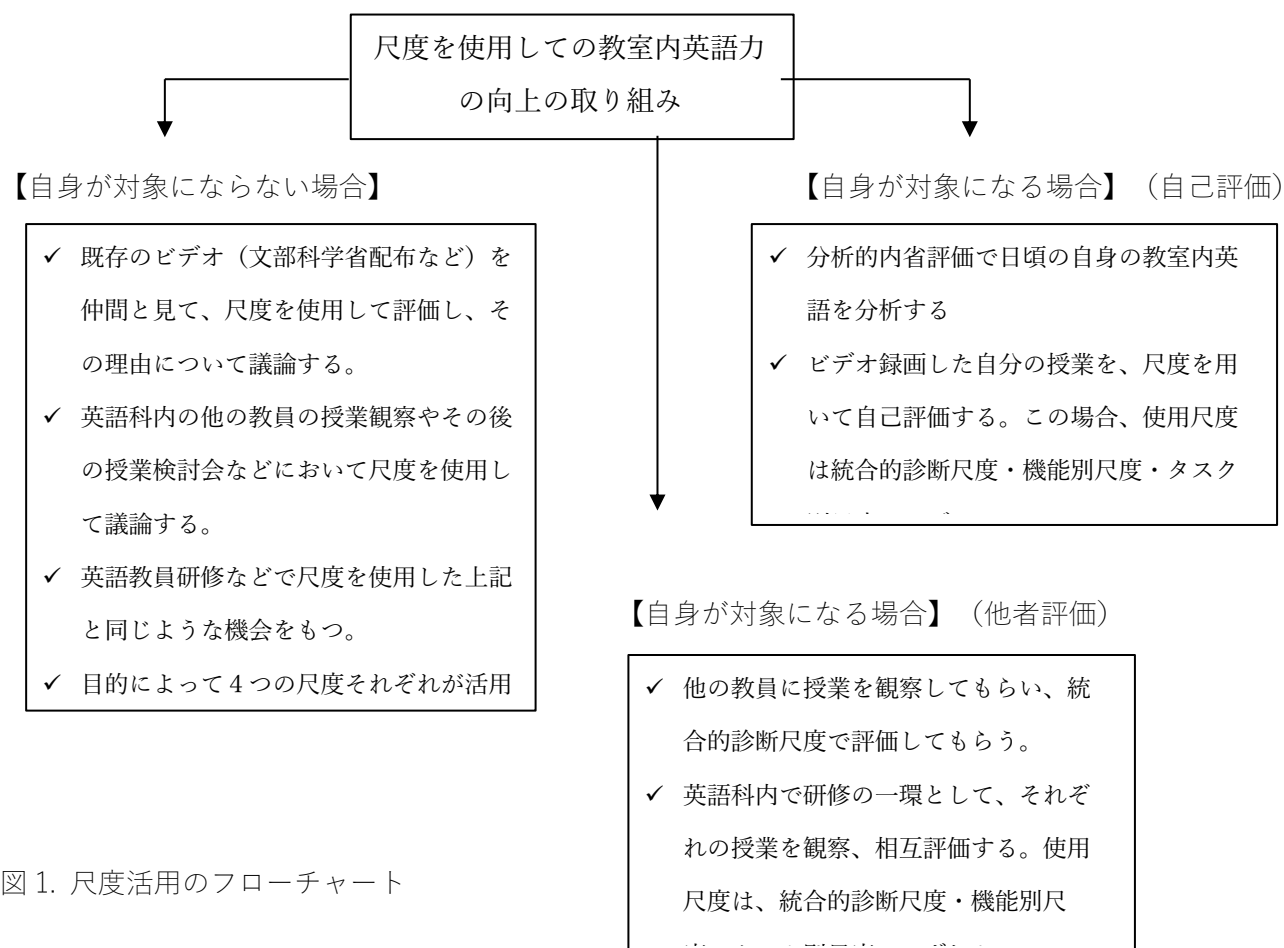


図 1. 尺度活用のフローチャート